



どんころ野外学校のガイドから、スノーシューハイクの楽しみ方を教えてもらう南富良野高生（同校提供）

地元の自然歩いて満喫

南富良野高生 スノーシュー体験

【南富良野】南富良野高の1年生18人が、町内落ちのNPO法人どんころ野外学校周辺の森林で、スノーシューを歩いて雪面を歩く「スノーシューハイク」を行った。生徒たちは、北海道の冬山ならではの自然や魅力に触れながら、雪原での遊びを体験した。町の観光資源でもある

野外活動について学ぶ科目「アウトドア」の一環で実施。生徒らはまず、どんころ野外学校のスタッフから、北海道の冬山の魅力について話を聞いた。同時に、厳しい寒さの中では十分な防寒具がなければ低体温症の危険があることなど、冬の野外活動に伴うリスクについても説明を受けた。

その後、スノーシューを装着し、どんころのガイドとともに往復で約40分間、森の中を歩いた。自由時間では、スノーシューで踏み固めて作った雪の滑り台をコメ袋で滑るなどして遊び、冬の森を約2時間満喫した。町内出身でスノーシュー

「ハイクは小学生以来という草野敦さん(16)は「歩くのは疲れたが、町に住んでいても見ることのない一面の銀世界に感動した」、富良野市出身で初めてスノーシューハイクを体験した佐々木煌晟さん(15)は「夜行性でめったに見られないというモモンガが見られてうれしかった」と笑顔を見せた。

(川上舞)